

# 景 気 動 向 調 査

( 第 159 回 )

2010 年 7 月 ~ 9 月期実績

2010 年 10 月 ~ 12 月期予測

株式会社 北日本銀行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

1. 実施時期           2010年9月下旬～2010年10月上旬
2. 調査対象期間      2010年7月～9月期実績  
                          2010年10月～12月期予測
3. 調査の方法        郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先            岩手県内企業400社
5. 回答数            234通（回答率 58.50 %）  
                          <内訳> 製造業82社 建設業48社 卸・小売業104社
6. 調査の主要項目   (1) 業況について  
                          (2) 設備投資の動向について  
                          (3) 資金繰りの状況について  
                          (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

#### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

～ 全体として緩やかな改善の動き続く ～

2010年7～9月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 63.5 と前期（4～6月期） 62.1 より 1.4 ポイント低下している。2009年4～6月期以降5期続けての上向きから一転し、下向いている。全体的な景況感は、厳しい状況下にありながら、緩やかな改善の動きが続いている。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	4～6月期実績	7～9月期実績	10～12月期見通し
景況感	62.1	63.5	56.9
売上高・出荷高	26.5	21.0	17.6
収益	27.1	18.9	23.0
販売価格	25.9	18.1	18.3
仕入価格	8.5	5.2	0.4
資金繰り	14.6	12.5	15.9

国内経済をみると、公共投資は総じて低調に推移しているものの、個人消費は経済対策の効果もあって持ち直している。設備投資は持ち直しに転じつつあり、住宅投資も下げ止まっている。輸出や生産はこのところ弱含んでいるが、企業の業況感は引続き改善している。総体としての景気動向は急速な円高や世界経済の減速、政策効果の息切れなどを背景に、改善の動きが弱まっている。

一方、岩手県内経済をみると、鉱工業生産は緩やかな回復の動きが続き、住宅建設も全体として底打ちの兆しが見られる。また、有効求人倍率は低水準ながらも上昇し、個人消費は持ち直し傾向にある。半面、公共投資は前年水準を下回っており、設備投資にも勢いがみられない。総体としての岩手県内景気動向は厳しい状況にあるものの、引続き持ち直しの動きが見られる。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 153 回	09年1～3月	92.7
2	第 152 回	08年10～12月	91.3
3	第 124 回	01年10～12月	91.2
4	第 109 回	98年1～3月	90.6
5	第 111 回	98年7～9月	90.0

(1971(昭和46)年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のDIは、前期比1.4ポイント低下して63.5となり、昨年4～6月期以降5期連続の前期までの上向きから一転し、下向きとなっている。

各業種別のDIをみると、製造業が17.0ポイント低下し、建設業が14.2ポイント、卸・小売業が2.6ポイント上昇している。10～12月期見通しでは、製造業が4.9ポイント、建設業が19.7ポイント、卸・小売業が2.1ポイント上昇し、各業種とも上向き見通しとなっている。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

DIは、全体では5.5ポイント上昇している。業種別では、卸・小売業が22.6ポイント、建設業が5.0ポイント上昇しているが、製造業は15.4ポイント低下している。

### (2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は3.7ポイント低下しているが、卸・小売業の仕入高は16.7ポイント上昇している。

### (3) 在庫

製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫はいずれも上向いている。

### (4) 収益

卸・小売業は上向いているが、製造業、建設業は下向いている。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は上向いているが、仕入価格はプラス局面ながら下向きに転じている。

## 3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は0.9ポイント低下している。業種別では、建設業、卸・小売業が下向いている。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「省力化・合理化」が3位となっている。

## 4. 資金繰り状況について

製造業、建設業は下向いているが、卸・小売業は上向いている。

## 5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「収益不振」、「過当競争」、「販売価格安」が上位を占めている。

# 1. 県内景況感について

## ～ 製造業の実績下向く ～

〔7～9月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が5.1%（前期6.5%）、「悪い」が68.6%（同68.6%）で、DIは63.5（同 62.1）と、1.4ポイント下向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 54.3（同 37.3）、建設業が 64.6（同 78.8）、卸・小売業が 70.1（同 72.7）となっている。製造業で下向いているが、建設業、卸・小売業は上向いている。

〔10～12月期の見通し〕 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が6.5%、「悪くなる」が63.4%であることから、DIは 56.9となり、7～9月期実績と比較すると上向く見通しとなっている。

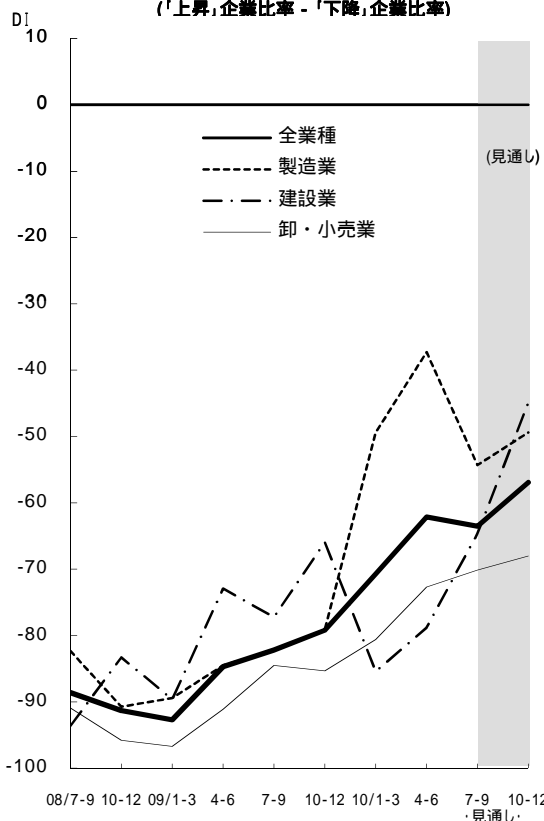
業種別にみると、製造業が 49.4、建設業が 44.9、卸・小売業が 68.0となっており、各業種とも上向く見通しとなっている。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	7～9月 (実績)	0.4	4.7	26.3	43.3	25.3	-63.5
	10～12月 (見通し)	0.4	6.1	30.1	42.4	21.0	-56.9
(製造業)	7～9月 (実績)	1.2	7.4	28.5	29.6	33.3	-54.3
	10～12月 (見通し)	1.3	9.1	29.8	36.4	23.4	-49.4
(建設業)	7～9月 (実績)	0.0	4.2	27.0	43.8	25.0	-64.6
	10～12月 (見通し)	0.0	8.2	38.7	32.7	20.4	-44.9
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	0.0	2.9	24.1	53.8	19.2	-70.1
	10～12月 (見通し)	0.0	2.9	26.2	51.5	19.4	-68.0

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 全体としては上向きで推移 ～

[7～9月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が29.0%(前期26.8%)、「減少」が50.0%(同53.3%)となり、DIは21.0(同 26.5)と5.5ポイント上昇し、6期続けて上向きとなっている。

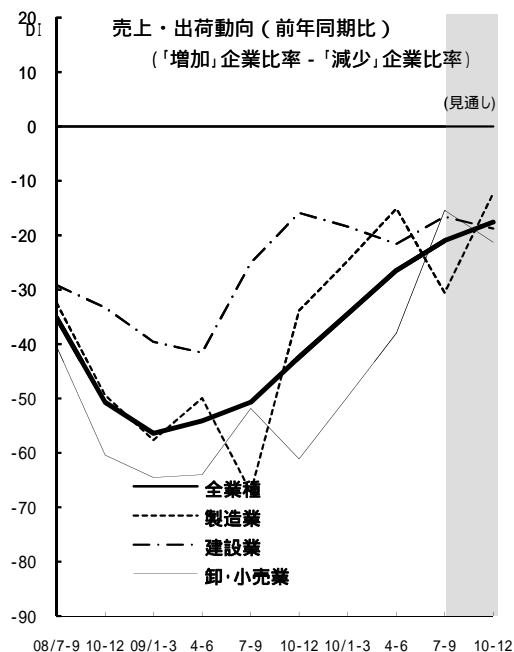
業種別にDIをみると、製造業 30.5(前期 15.1)、建設業 16.6(同 21.6)、卸・小売業 15.4(同 38.0)となっており、製造業は下向いているが、建設業、卸・小売業は上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が26.6%、「減少」が44.2%であることから、DIは 17.6で、7～9月期実績と比較して3.4ポイント上向き見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業で 12.2、建設業で 18.8、卸・小売業で 21.3となっており、7～9月期実績と比較して製造業のみ上向き、建設業、卸・小売業は下向き見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7～9月 (実績)	8.5	20.5	21.0	32.1	17.9	-21.0
	10～12月 (見通し)	3.0	23.6	29.2	30.9	13.3	-17.6
(製造業)	7～9月 (実績)	11.0	14.6	18.3	40.2	15.9	-30.5
	10～12月 (見通し)	6.1	23.2	29.2	30.5	11.0	-12.2
(建設業)	7～9月 (実績)	6.3	22.9	25.0	22.9	22.9	-16.6
	10～12月 (見通し)	2.1	22.9	31.2	18.8	25.0	-18.8
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	7.7	24.0	21.2	29.8	17.3	-15.4
	10～12月 (見通し)	1.0	24.3	28.1	36.9	9.7	-21.3



(2) 生産高または仕入高

～ 大幅に上向いた卸・小売業 ～

[7～9月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が28.8%（前期31.3%）、「減少」が43.8%（同42.6%）で、DIは15.0（同11.3）と3.7ポイント下向いている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は28.0%（前期21.0%）、「減少」が46.0%（同55.7%）で、DIは18.0（同34.7）と16.7ポイント上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が32.1%、「減少」が38.3%であることから、DIは6.2で、7～9月期実績と比較して8.8ポイント上向く見通しである。

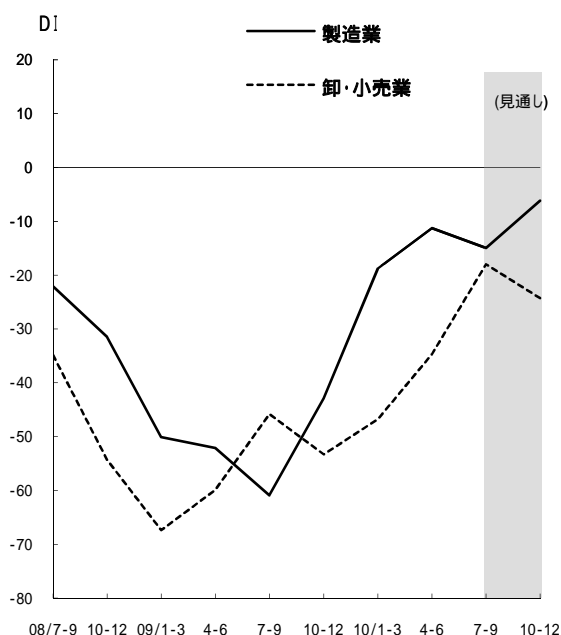
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が20.2%、「減少」が44.5%であることから、DIは24.3となり、7～9月期実績と比較して6.3ポイント下向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		（％）						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
（製造業）	7～9月 （実績）	11.3	17.5	27.4	30.0	13.8	-15.0	
	10～12月 （見通し）	7.4	24.7	29.6	27.2	11.1	-6.2	
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	7.0	21.0	26.0	31.0	15.0	-18.0	
	10～12月 （見通し）	1.0	19.2	35.3	35.4	9.1	-24.3	

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)





(3) 在庫

～ 上向く見通し ～

[7～9月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は17.7%（前期14.3%）、「減少」が34.1%（同39.0%）であることから、DIは 16.4（同 24.7）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が7.0%（同11.6%）、「適正」が81.7%（同81.2%）、「不足」が11.3%（同7.2%）である。

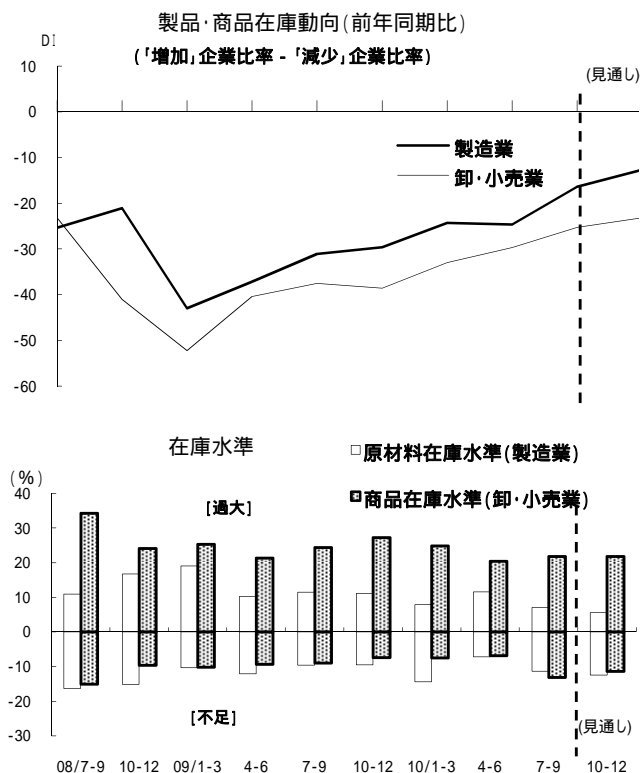
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が11.6%（前期12.1%）、「減少」36.9%（同41.8%）であることから、DIは 25.3（同 29.7）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が21.8%（同20.4%）、「適正」が65.1%（同72.8%）、「不足」が13.1%（同6.8%）である。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が12.7%、「減少」が25.4%で、DIは 12.7となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が5.6%、「適正」が81.9%、「不足」が12.5%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が8.4%、「減少」が31.6%であることから、DIは 23.2となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が21.8%、「適正」が66.8%、「不足」が11.4%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	7～9月 （実績）	2.5	15.2	48.2	27.8	6.3	-16.4
	10～12月 （見通し）	1.3	11.4	61.9	16.5	8.9	-12.7
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	2.1	9.5	51.5	25.3	11.6	-25.3
	10～12月 （見通し）	0.0	8.4	60.0	24.2	7.4	-23.2



(4) 収 益

～ 上昇幅が大きい卸・小売業の実績 ～

[7～9月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が27.2%（前期22.7%）、「減少」が46.1%（同49.8%）であり、D Iは 18.9（同 27.1）となり8.2ポイント上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業 19.8（前期 15.0）、建設業 33.3（同 26.0）、卸・小売業 11.6（同 37.4）で、製造業、建設業が下向きとなり、卸・小売業が大きく上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が21.6%、「減少」とみる企業が44.6%であることから、D Iは 23.0で、7～9月期実績と比較して4.1ポイント下向く見通しとなっている。

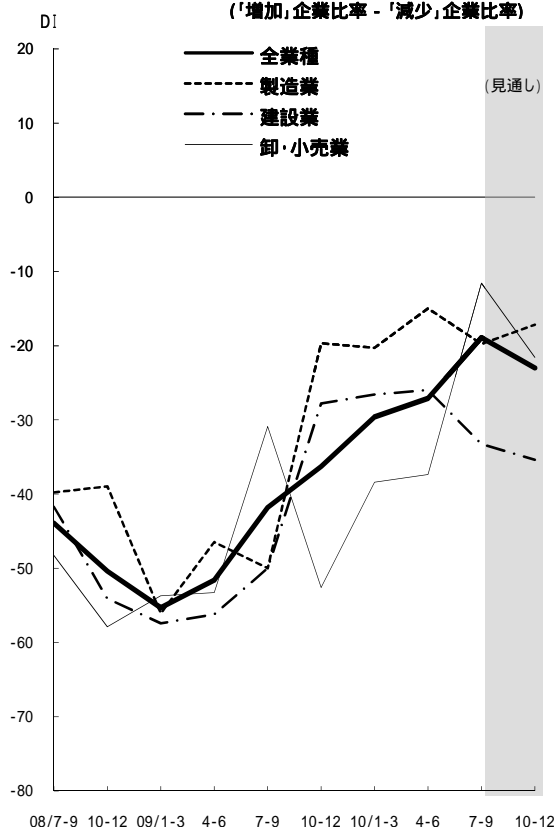
業種別にD Iをみると、製造業 17.2、建設業 35.4、卸・小売業 21.6で、7～9月期実績と比較して、製造業は上向き、建設業、卸・小売業は下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	5.6	21.6	26.7	26.7	19.4	-18.9
	10～12月 (見通し)	1.7	19.9	33.8	29.0	15.6	-23.0
(製造業)	7～9月 (実績)	6.2	22.2	23.4	30.9	17.3	-19.8
	10～12月 (見通し)	2.5	21.0	35.8	25.9	14.8	-17.2
(建設業)	7～9月 (実績)	2.1	16.7	29.1	27.1	25.0	-33.3
	10～12月 (見通し)	0.0	16.7	31.2	27.1	25.0	-35.4
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	6.8	23.3	28.2	23.3	18.4	-11.6
	10～12月 (見通し)	2.0	20.6	33.2	32.4	11.8	-21.6

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 上向いた販売価格 ～

[7～9月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が8.3%（前期7.5%）、「低下」が26.4%（同33.4%）であることから、DIは18.1（同25.9）と上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が18.8%（前期22.7%）、「低下」が13.6%（同14.2%）であることから、DIは5.2（同8.5）と下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が8.4%、「低下」とみる企業が26.7%であることから、DIは18.3で、7～9月期実績と比較してほぼ横ばいの見通しとなっている。

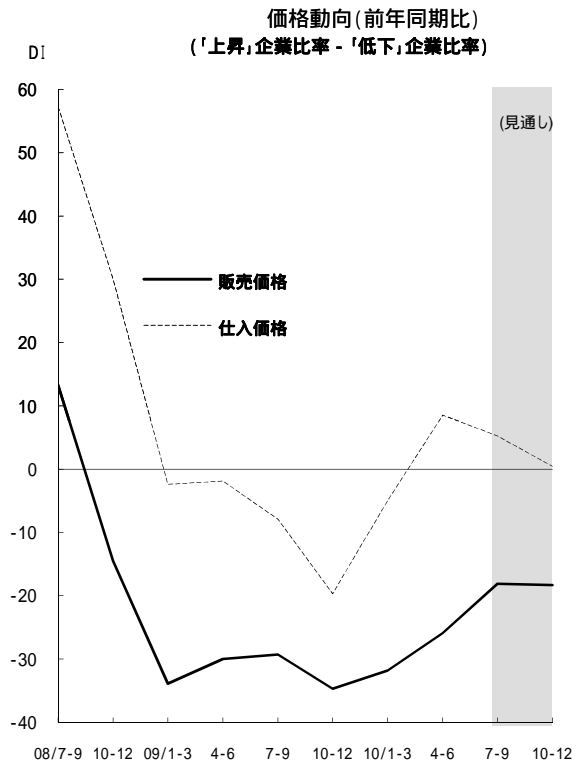
仕入価格については、「上昇」とみる企業が14.6%、「低下」とみる企業が14.2%であることからDIは0.4となり、7～9月期実績と比較して下向き見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

		（％）						
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI	
全業種	7～9月 (実績)	0.9	7.4	65.3	19.9	6.5	-18.1	
	10～12月 (見通し)	0.9	7.5	64.9	19.7	7.0	-18.3	

仕入価格(前年同期比)

		（％）						
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI	
全業種	7～9月 (実績)	2.6	16.2	67.6	11.4	2.2	5.2	
	10～12月 (見通し)	1.3	13.3	71.2	10.2	4.0	0.4	



### 3.設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

～ 実績、見通しとも下向く ～

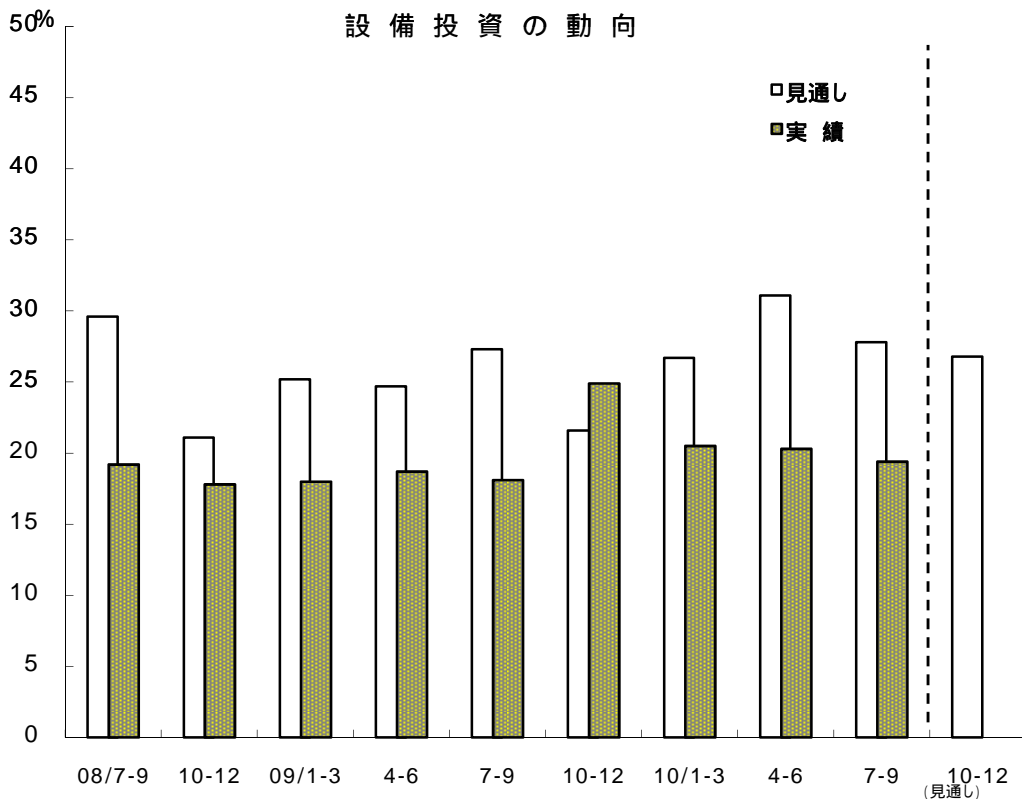
[7～9月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は19.4%（前期20.3%）と下向いている。

これを業種別にみると、製造業は23.8%（前期19.2%）と上向いており、建設業12.5%（同18.8%）、卸・小売業は19.2%（同22.0%）と下向いている。

[10～12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で15.4%（前期13.5%）、「計画はあるが具体化していない」は11.4%（同14.3%）、「計画はない」は73.2%（同72.2%）であった。

「計画あり」は合計26.8%（同27.8%）と前期予想を下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で27.3%（前期38.6%）、建設業で14.6%（同8.1%）、卸・小売業で32.1%（同29.3%）の見通しとなっている。



## (2) 設備投資の目的

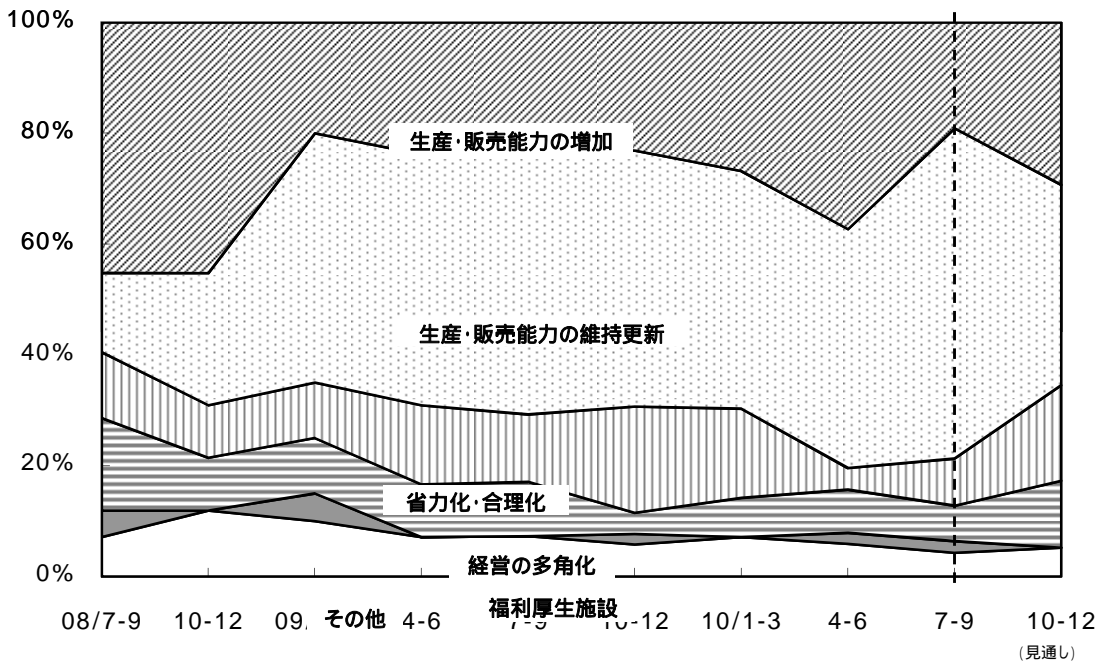
[7～9月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(19.4%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が59.6%（前期43.1%）でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が19.1%（同37.3%）で2位、「省力化・合理化」が8.5%（同3.9%）で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、製造業では「生産・販売能力の増加」と「省力化・合理化」が、建設業では「生産・販売能力の増加」と「経営の多角化」がそれぞれ同率2位となっている。卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が2位となっている。

[10～12月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(26.8%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が36.2%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」29.3%、「省力化・合理化」17.2%、「経営の多角化」12.1%の順となっている。

業種別では、卸・小売業と製造業では「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、建設業では「経営の多角化」がトップとなっている。

設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

#### ～ 卸・小売業の実績改善 ～

[7～9月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が17.6%(前期14.8%)、「苦しくなった」が30.1%(同29.4%)であることから、DIは12.5(同14.6)と上向いている。

業種別にDIをみると、製造業11.0(前期8.7)、建設業22.9(同11.8)と下向いているが、卸・小売業は8.9(同21.0)と上向いている。

[10～12月期の見通し] 7～9月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が12.5%、「苦しくなる」が28.4%で、DIは15.9となり、7～9月期実績と比較して、下向く見通しとなっている。

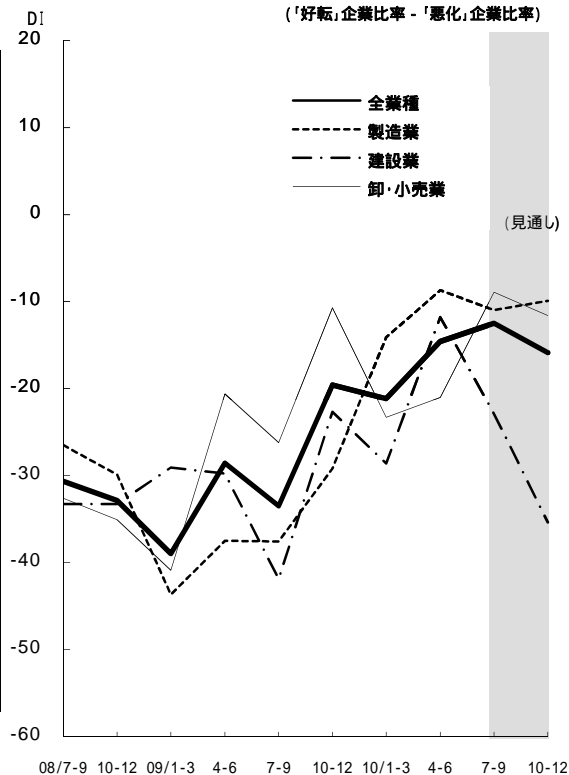
業種別にDIをみると、製造業9.9、建設業35.4、卸・小売業11.6となっており、7～9月期実績と比較して、建設業と卸・小売業が下向く見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(% )						DI
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦		
全業種	7～9月 (実績)	2.1	15.5	52.3	24.5	5.6	-12.5	
	10～12月 (見通し)	1.7	10.8	59.1	21.1	7.3	-15.9	
(製造業)	7～9月 (実績)	2.4	18.3	47.6	28.0	3.7	-11.0	
	10～12月 (見通し)	2.5	12.3	60.5	18.5	6.2	-9.9	
(建設業)	7～9月 (実績)	2.1	10.4	52.1	25.0	10.4	-22.9	
	10～12月 (見通し)	0.0	6.3	52.0	29.2	12.5	-35.4	
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	1.9	15.5	56.3	21.4	4.9	-8.9	
	10～12月 (見通し)	1.9	11.7	61.2	19.4	5.8	-11.6	

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率)



## (2) 現金・預金

[7~9月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が21.0%(前期12.6%)、「減少した」が34.2%(同37.1%)であることから、DIは13.2(同24.5)と上向いている。

[10~12月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が11.7%、「減少する」が32.6%であることから、DIは20.9(当期13.2)と下向く見通しとなっている。

## (3) 金融機関借入

[7~9月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が18.7%(前期16.9%)、「減少した」が28.3%(同29.8%)であることから、DIは9.6(同12.9)と上向いている。

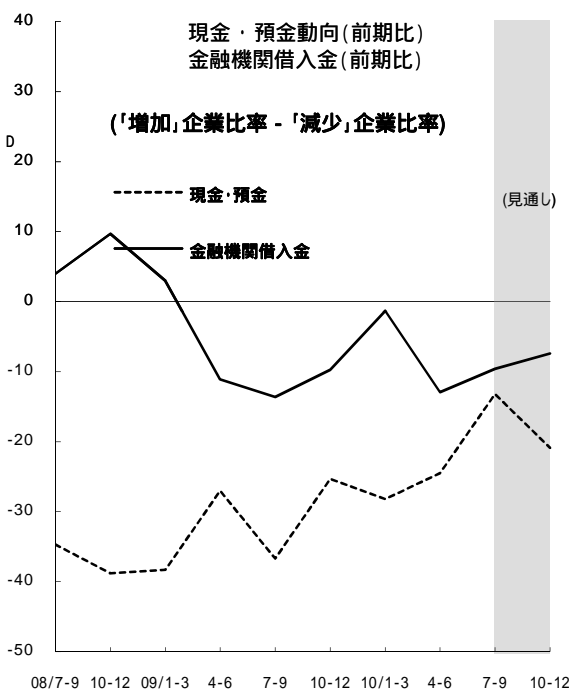
[10~12月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が18.1%、「減少する」が25.5%であることから、DIは7.4(当期9.6)と上向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	7~9月(実績)	2.6	18.4	44.8	26.1	8.1	-13.2	
	10~12月(見通し)	1.3	10.4	55.7	24.3	8.3	-20.9	

金融機関借入金(前期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	7~9月(実績)	5.2	13.5	53.0	25.7	2.6	-9.6	
	10~12月(見通し)	4.4	13.7	56.4	24.2	1.3	-7.4	



#### (4) 販売代金回収期間

[7~9月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が3.0%(前期3.0%)、「長くなった」が9.1%(同12.8%)であることから、DIは6.1(同9.8)となった。また、87.9%(同84.2%)の企業は「変わらない」としている。

[10~12月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が3.0%、「長くなる」が10.0%であることから、DIは7.0(当期6.1)となる。また、87.0%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

[7~9月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が1.3%(前期2.1%)、「短くなった」が5.2%(同2.6%)であることから、DIは3.9(同0.5)となった。また、93.5%(同95.3%)の企業は「変わらない」としている。

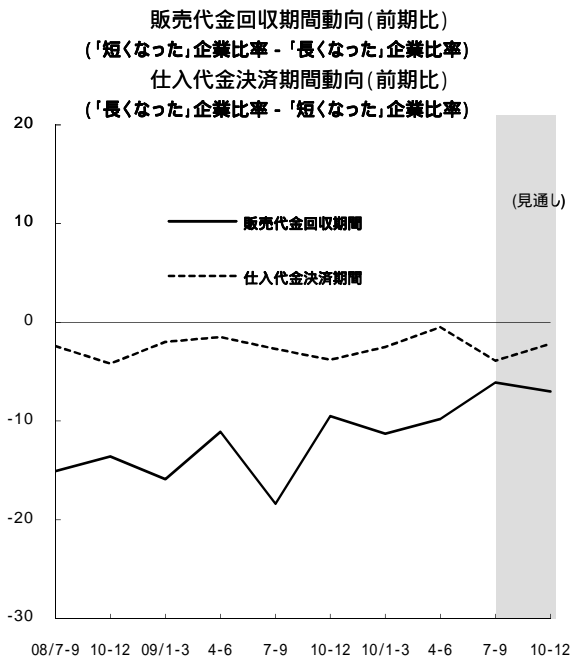
[10~12月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が0.9%、「短くなる」が3.1%であることから、DIは2.2(当期3.9)となる。また、96.0%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(% )					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	7~9月 (実績)	0.4	2.6	87.9	6.9	2.2	-6.1
	10~12月 (見通し)	0.4	2.6	87.0	7.4	2.6	-7.0

仕入代金決済期間(前期比)

		(% )					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	7~9月 (実績)	0.0	1.3	93.5	4.3	0.9	-3.9
	10~12月 (見通し)	0.0	0.9	96.0	2.7	0.4	-2.2





## 5. 経営上の問題点について

### ～ 「販売価格安」の割合高まる ～

7～9月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」33.6%（前期33.4%）、「過当競争」16.4%（同17.3%）、「販売価格安」15.3%（同12.6%）、「収益不振」14.6%（同16.6%）、「原材料・仕入価格高」4.5%（同6.1%）の順となり、「販売価格安」と「収益不振」の順位が入れ替わっている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」36.0%（同33.3%）が9期連続でトップとなり、「販売価格安」13.2%、「収益不振」11.8%の順となっている。建設業では「受注不振」31.9%（同32.6%）がトップとなり、「過当競争」27.5%、「収益不振」16.5%の順となっている。卸・小売業では「売上不振」33.7%（同34.6%）、「販売価格安」19.3%、「過当競争」16.0%の順となっている。

いずれの業種も「売上・受注不振」、「収益不振」、「過当競争」、「販売価格安」が上位を占めている。

### 経営上の問題点

